

東京大学とサノフィ

炎症性疾患およびがん領域における共同研究契約を締結

ーオープンイノベーションの推進により、新たな分子標的薬の創出を推進ー

平成 27 年 3 月 10 日

東京大学生産技術研究所・医科学研究所
サノフィ株式会社

東京大学（所在地：東京都文京区本郷 7-3-1、総長：濱田 純一）とサノフィ株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：ファブリス・バスキエラ、以下「サノフィ」）は、炎症性疾患およびがん領域における 2 件の新規治療薬に関する共同研究契約を締結しました。本契約により、東京大学が医薬品開発において基礎研究から臨床開発段階へ進めるために必要な基礎データの構築を、サノフィの協力のもと加速させることで、炎症性疾患およびがん領域における日本発の新たな分子標的薬の創出が期待されます。具体的には以下の 2 つの免疫制御分子を標的とした新規治療薬の創出に向けた共同研究を行います。

(1) 炎症性疾患の免疫制御分子

東京大学 生産技術研究所 炎症・免疫制御学社会連携研究部門 谷口維紹（たにぐち ただつぐ）特任教授との共同研究では、感染等による敗血症など有効な治療法が確立されていない急性炎症性疾患やウイルス感染による慢性炎症性肝疾患を対象領域とします。

谷口特任教授は次のように述べています。「我々はこれまでの研究により、特定の配列をもつ核酸化合物が、炎症性疾患の免疫制御分子と結合することにより、その分子の免疫反応促進作用を阻害することを明らかにしています。サノフィとの共同研究において、さまざまな炎症性疾患モデルで、この核酸化合物の有効性を確認し、さらに有効な核酸化合物の創出を行うことにより、ウイルス性肝炎、敗血症、さらに SLE（全身性エリテマトーデス）、虚血再灌流傷害、熱中症、特発性肺線維症、悪性腫瘍等の有効な治療薬のない疾患患者への新規治療法の早期実現化を期待しています。」

(2) 肝臓がんおよびその他のがんの免疫制御分子

東京大学 医科学研究所 外科・臓器細胞工学分野 田原秀晃（たはら ひであき）教授との共同研究では、炎症による肝臓の線維化、肝硬変の進行による肝臓がん、その他のがんを対象領域とします。

田原教授は次のように述べています。「これまでの研究を基に、腫瘍細胞に対する局所の免疫反応を抑制する免疫制御分子の機能を、この分子の抗体を用いて阻害することにより、がん患者における細胞自律性機能と免疫制御機能を調整することが可能になり、既存治療法の抗腫瘍効果を大きく向上させることができる可能性があります。サノフィとの共同研

究により、肝臓がんを中心としたヒトのがん病態とこの腫瘍細胞に対する免疫反応を抑制する分子の発現との関連を精査し、さらにこの分子の抗腫瘍効果を、肝臓病をはじめとする疾患モデルで確認したうえで、さらなる有効性をもつ新たな分子標的薬の開発を模索し、有効な治療薬のないがん種への新規治療法が提供できると期待しています。」

サノフィの研究開発部門 創薬推進部 部長であるジェフリー・エンシーナスは、次のように述べています。「サノフィでは革新的な医学研究を効果的な治療薬に結び付ける活動に積極的に取り組んでいます。日本を含む東アジアでは、ウイルス性感染症、線維化疾患、がんなどの肝臓疾患の患者さんが欧米と比較して多く、大きな問題となっています。日本の最先端の研究機関である東京大学の優れた医学研究力とサノフィの創薬に関する知見を融合することにより、炎症疾患領域、およびがん領域における創薬研究開発をすすめ、日本だけでなく世界のアンメットメディカルニーズに応える先進的な医薬品の開発に取り組んでいきます。」

以上